

おばこ稲作情報

2021年4月
No. 4

JA秋田おばこ

目標

健苗育成に向け温度管理徹底を。春作業は豊作への地盤づくりと意識し、丁寧な作業を行おう。

「苗半作」と言われて久しいですが、機械化、省力化が進んだ現代の稲作でも健苗育成が重要であることは変わりません。むしろ、健苗育成の重要性が増していると言っても過言ではありません。

「人の都合」で作業を進めていくと、どうしても苗に頑張ってもらわなければならぬ時期があります。そんな時に弱々しい苗だったり、すぐに傷んでしまったり、そこから回復するための時間がかかって作業や適期が遅れてしまいます。

田植え後は、適期に除草剤を撒いて、素早

どうして健苗育成なの？

く活着させ、初期生育をしっかりと確保し、中干しに向かわなければなりません。元気な苗だと、薬害軽減や気温変化への対応、早期活着、旺盛な初期生育が望めます。



健苗育成への道のり

過保護にしない

苗は意外と低温に強く、暖かいと伸びて軟弱な苗に。ハウス温度管理の徹底を。出芽までは床土温度30℃以上にならないようにする。

かん水は苗に合わせて

苗の大きさに合わせて、朝にたっぷりとかん水することを基本に。苗が小さいうちの過かん水は窒息や病気の元になりやすい。育苗後半の夕方に葉が巻いても心配御無用。

カビが出ない換気

苗立枯病等は所詮カビ。高温多湿で発生しやすいため、蒸れないように温度管理とかん水量の調整を。ハウスに人が入って暑い・蒸れると感じたら換気しよう。

弁当肥で馬力付けろ

田植え1週間前頃に追肥を行う。栄養を持たせた苗は活着も早い。

令和三年稲作の主要課題は「根活」です。昨年を思い出してみても、中干しをしっかりと出来なかつたことで、倒伏や高温登熟の被害に遭ってしまいました。改めて、根の役割を感じさせられました。

そこで、根を活かし、根の力によって豊作を呼び込むためにも、今からの準備が必要なのです！

耕起は土をほぐして空気を含ませながら、根域を確保しましょう。代かきでは、ほぐした下層を残しながら、土

“根活”のために準備しよう！

根活するべ

直前まで乾田化促進

ケイ酸

耕深15cm確保

代かき7cm

代かき時の水量に注意

良く代かきし、ワラを埋め込む

ワキ(異常還元)に注意

昨年はワラが多かつたため、今春はワキに注意が必要。しっかりと代かきしてください。

と水を混ぜ、ワラを埋め込むイメージで作業をしてください。

今年の夏も暑いと予報されています！高温登熟に耐えるには「ケイ酸」が必要です。耕起前に散布し土中にケイ酸がある状態を作ると根が吸収しやすく、暑さの中でも実りを支えてくれます。

春のうちに準備できるかが分かれ道となります。